

令和7年2月27日

報道関係者 各位

「肥前島原子ども狂言 春の狂言会」の開催について

標記の件について、下記のとおり開催されますので、お知らせします。

## 記

1. 日時：令和7年3月20日（木） 午後2時30分開場 午後3時開演
2. 会場：島原文化会館大ホール 入場無料
3. 主催：肥前島原子ども狂言協力会
4. 共催：島原市教育委員会・島原城薪能振興会
5. 内容：令和6年度肥前島原子ども狂言ワークショップに参加した子どもたちが、昨年10月に島原城薪能で演じた演目を上演します。和泉流狂言方 野村万禄先生も来場し、春の狂言会の終了後に、子ども狂言ワークショップの閉講式を実施します。

未来へつなぐ島原らしさ 暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまち



担当：島原市教育委員会社会教育課  
社会教育文化班 担当 峰、末吉、帯田  
電話：0957-68-5473  
E-mail：shakyo@city.shimabara.lg.jp



島原守護神 しまばらん

# 肥前島原子ども狂言 春の狂言会

日時 令和7年3月20日(木・祝)

開場 午後2時30分・開演 午後3時

会場 島原文化会館大ホール **入場無料**

出演 肥前島原子ども狂言

和泉流狂言方 野村万禄先生

島原城薪能と同じ演目で上演！とっても楽しい狂言の世界！

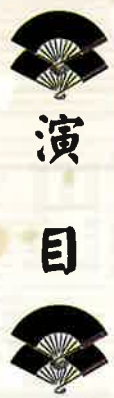
知っているお友達も出演しているかもしれません。

島原城薪能の舞台を見て、また見たいという方は是非、見に来てくださいね！



●主催：肥前島原子ども狂言協力会／共催：島原市教育委員会・島原薪能振興会

○お問い合わせ：島原市教育委員会 社会教育課 TEL0957-68-5473



# 演目

小謡 鶴亀の舞

小舞 小山伏

和泉流狂言 痺しびり

小舞 兎

和泉流狂言 口真似

小舞 柳の下

和泉流狂言 舟ふな

小舞 花の袖

島原狂言 釣ろうよ



## 島原狂言「釣ろうよ」

昔から庶民により島原で語り継がれてきた狂言を原案に、島原のオリジナルの狂言として、元島原城資料解説員の故・松尾卓次氏による脚本と和泉流狂言師・野村万祿氏の演出により平成18年に創作されました。

鯛は、淡紅色で、姿が美しく、また「めでたい」に通じるところから、縁起のよい魚とされ、祝膳に尾頭付きで用いられる魚です。島原の九十九島沖はいい漁場で、鯛、がんば（フグ）など多くの魚がとれます。

目出度い鯛を釣りに行った太郎冠者は何を釣ってくるのでしょうか。今年、島原城築城400年をお祝いし、城下町島原の歴史と文化の継承の象徴である島原城新能と肥前島原子ども狂言とともに、城下町島原のさらなる発展を祈念する「鯛つり」です。

## 和泉流狂言「痺しびり」

太郎冠者は主人から酒の肴を買って来いと命じられます。しかし、遠くに出かけるのが面倒だと思った太郎冠者は、仮病を思いつきます。主人はすぐに太郎冠者の仮病を見抜いてしまいます。いったいどんな仮病でしょうか？

## 和泉流狂言「口真似」

主人から酒を共に楽しく飲む相手を連れて来るよう命じられた太郎冠者。しかし、連れて来たのは酒癖が悪いと評判の男だったので叱られてしまいます。そこで主人は、丁寧に焼酎を貰おうと太郎冠者に自分の言うとおりに行動して、余計な事はするなどと言います。ところが、太郎冠者は主人の物真似をすればよいと勘違いしてしまい…。後半の3人の軽妙な言葉のやりとりをご覧ください。

## 和泉流狂言「舟ふな」

主人は、近頃遊山に出掛けておらず、召し使いの太郎冠者を連れて、西の宮へお参りに行きます。途中、大きな川にさしかかった太郎冠者は、舟を引き寄せて、川を渡るうとし声をかけます。ところが、主人は「ふね」太郎冠者は「ふな」と論争になり、中々先へ進みません。そこで、互いに古歌を読み合い自分の呼び方が正当だと主張します。さて、お互い譲らない勝負の結末はどうなるのでしょうか…。

## 【肥前島原子ども狂言】

島原ではずっと昔、約400年前から島原城で能と狂言が行われていました。島原城が出来上がった時に、松倉重政藩主は人々を招いてその完成を祝って能を催したと記録にあります。その後、松平忠房公が島原にやって来たら、「お能好きのお殿様」でしたので、さかんに能が行なわれるようになりました。松平文庫に残されている藩日記には、よく能楽の記事があります。また文庫には500冊余りの能本や狂言本が伝えられていて、盛んだった島原能楽がしのべれます。この島原における能楽の歴史を継承するために、昭和58年に島原城新能（たきぎのう）が復活し、毎年秋に島原城天守閣前広場の特設能舞台で公演されています。そして、この城下町・島原ならではの伝統文化をぜひ次世代の子どもたちにも伝えようと「肥前島原子ども狂言ワークショップ」が平成16年から始まり、今年、21年目をむかえます。江戸時代より島原に能と共に伝わった狂言を体験しながら、城下町ならではの歴史や文化を学び伝承していくために、和泉流狂言師・野村万祿さんの指導のもと、島原城を背景にした島原城新能の舞台での発表を目標に、毎年稽古を重ねています。平成18年には島原オリジナルの島原狂言「釣ろうよ」も誕生し、島原を舞台にしたご当地狂言として、親しまれています。島原城新能の舞台の他にも、2007年の火都市国際会議島原大会や、2012年のジオパーク国際ユネスコ会議の舞台では、世界各国から集められた海外のお客様の前で、日本の素晴らしい伝統芸能を披露し大絶賛を浴びました。2016年3月には、「島原半島文化賞」を受賞し、それを機に「肥前島原子ども狂言」と正式名称を改めました。また、2020年6月には「長崎県地域文化章」を受章しました。肥前島原子ども狂言は、これからもしっかりと島原の歴史と文化を受け継いでいきたいと思っております。島原っ子の晴れの舞台にご期待ください。



## 講師 野村万祿先生（能楽師 狂言方 和泉流）

1966年東京に生まれる。故・野村万蔵（芸術院会員・人間国宝）の孫。伯父の初世野村萬（人間国宝）に師事。1990年東京芸術大学音楽学部邦楽科能楽専攻卒業。2000年、2世野村万祿襲名。野村万蔵家の別家を興す。現在福岡在住。国内外において数多く、九州各地に稽古場を開設。一般にも広く門戸を開き狂言の普及と発展に努めている。また、クラシックアンサンブルやピアノとの共演など幅広く活躍中。2004年よりこれまで20年間にわたり、「肥前島原子ども狂言ワークショップ」の講師を務める。公益社団法人能楽協会本部理事・九州支部長。重要無形文化財総合指定保持者。平成22年度福岡県文化賞（奨励部門）受賞。